

単位空間毎にみる計画内容の変遷

—船橋市における地域施設の整備過程に関する研究 その3—

日大生産工(院) ○浅野 剛史 多田 豊 若竹 雅宏
大川 輝 小太刀 憲行 日大生産工 浅野 平八

1. はじめに

公民館では利用者、職員が時代毎、地域毎の課題に合わせた活動を行なっている。そうした活動は公民館の単位空間¹で行なわれている。

既往研究では公民館の施設配置計画や適正規模を扱うものはあるが、各部屋の計画内容の変遷を取りあげるものは少ない。

そこで本研究では公民館の単位空間がどのような変遷をたどり、公民館における基礎的な空間、共通する空間を明らかにする。このことは、今後の公民館の設計計画において有効な資料となると考える。

2. 研究の方法

船橋市にある公民館25館のうち、1事例を除く船橋市の公民館24館を対象にする²。

24館にみられる単位空間の種別は、ロビー、集会室、大集会室、実習室、音楽室、和室、視聴覚室、体育・レクリエーション室の8つである。ここで視聴覚室、体育・レクリエーション室については事例数が少なく変遷を扱うことが適当でないと判断し、6つの単位空間について調査・分析を行なう。

24館の単位空間の種類、数、面積、平面構成について時系列で考察する。なお中央公民館は制度上は地区館であるが全市対象としている公民館であり他の館とは室数、規模、平面構成が異なるため除くものとする。

また、単位空間毎に家具・設置備品について実態調査を行い分析・考察する。

3. 時系列にみる船橋市公民館の単位空間

表1に各館の建設年、延床面積、階数、単位空間数について時系列順にまとめたものを示す。

3-1. 単位空間の種類

各館にある単位空間の時系列にみる変化は、集会室、実習室は全館必ず設置されている。

和室において事例 j、大集会室において事例 b、h を除く全ての館に設置されている。

音楽室は1977年に中央公民館である事例 e が設置され、以降設置されていないが、1986年の事例 o から設置され続け音楽室の設置が定着している。

視聴覚室は事例 e にのみ設置され、以降視聴覚室は設置されていない。

このことから、集会室、大集会室、和室、実習室は特に公民館で学習する上で必要となる単位空間であることがわかる。

表 1 船橋市公民館の概要

事例	基 幹 館	建 設 年	延 床 面 積 (㎡)	階 数	貸 出 室 数	集 会 室	和 室	大 集 会 室	体 育 ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン 室	実 習 室	音 楽 室	視 聴 覚 室
a		1970	714	2	8	3	3	1		1		
b		1975	853	2	5	2	1		1	1		
c	○	1975	980	2	7	3	2	1		1		
d	○	1977	1806	4	8	3	3	1		1		
e	○	1977	5660	7	17	8	3	1	1	1	1	1
f		1979	999	2	7	3	2	1		1		
g		1980	1032	2	7	2	3	1		1		
h		1981	761	2	7	4	2			1		
i		1981	920	2	5	2	1	1		1		
j		1981	2063	3	7	3	2	1	2	1		
k		1981	1153	3	7	3	2	1		1		
l		1983	1027	2	7	3	2	1		1		
m		1984	1032	2	7	3	2	1		1		
n		1985	1031	2	7	3	2	1		1		
o		1986	1200	3	9	4	2	1			1	1
p		1988	1643	3	7	2	2	1		1	1	1
q		1989	1291	2	8	3	2	1		1	1	1
r		1990	1405	2	8	3	2	1		1	1	1
s		1990	1308	2	8	3	2	1		1	1	1
t		1991	1567	3	8	3	2	1		1	1	1
u		1991	1805	4	8	3	2	1		1	1	1
v		1993	1564	2	9	4	2	1		1	1	1
w	○	1996	1982	4	9	4	2	1		1	1	1
x		2000	1726	2	9	4	2	1		1	1	1

3-2. 単位空間の数

表 1 の館毎の単位空間数をみると、70 年代～80 年代前半は 5～7 室がみられるが 80 年代後半から 1 から 2 室増え、80 年代後半以降は 8、9 室という構成が多くみられる。それ以外のものでは特に大きな変化はみられない。

集会室は 3、4 室が多く、和室は事例 k 以降から 2 室に定着している。大集会室、実習室、音楽室は各館全て 1 室という構成であり、複数設置されることはない。

集会室や和室のように小集団活動に使われる単位空間が複数設置されていることは、特に地域住民の利用で小集団による活動としてさまざまな目的をもって集まることが多くあることがわかる。

3-3. 単位空間の面積

表 2 に年代毎に延床面積と単位空間の面積を示す。

年代毎にみる単位空間の平均面積については全年代の平均面積と比べると年代⑤で和室、音楽室の平均面積は小さくなり実習室の平均面積は大きくなっている。

History of the Changing Plan of the Unit Rooms:

A Study on the Placing Process of the Community Facilities in Funabashi City, 1946-2007, Part 3
Takeshi ASANO, Yutaka TADA, Masahiro WAKATAKE,
Akira OKAWA, Noriyuki KODACHI, Heihachi ASANO

特に大きな変化がみられたのは大集会室、ロビーで大集会室は年代③、④に入ってから急に大きくなり、ロビーは年代④、⑤に入ってから大きくなっている。

これは大集会室が大きくなりロビーがホワイエやラウンジとしても役割をもつようになったために大きくなったと考えられる。また、児童ホームや図書館との併設設置となり、ロビーを共有するため規模が大きくなったと考えられる。

延床面積は中央公民館である事例 e を除けば、各年代増加している。これは 80 年代後半以降に単位空間が 1 から 2 室増加したことと大集会室、ロビーの規模が大きくなったためであると考えられる。

表2 年代毎にみる平均延べ床面積

建設年代	全年代	年代① 1970-1979年	年代② 1980-1984年	年代③ 1985-1989年	年代④ 1990-1994年	年代⑤ 1995-2000年
公民館数	24 (23)	6 (5)	7	4	5	2
延床 平均面積	1489 (131.3)	1,835 (1,070)	1,127	1,314	1,530	1,854
ロビー 平均面積	66.1 (66.4)	42.1 (39.0)	56.6	58.7	98.4	105.0
集会室 平均面積	48.9 (48.1)	48.7 (45.3)	48.1	46.7	51.6	49.5
和室 平均面積	38.1 (37.1)	38.2 (33.7)	36.8	40.5	40	32
大集会室 平均面積	264.9 (267.3)	196.2 (191.6)	210.8	303.4	360.1	284.7
調理室 平均面積	71.8 (71.7)	57.2 (53.7)	72.4	76.5	74.7	96.6
音楽室 平均面積	78.4 (75.9)	103.2 ※事例5のみ	無し	82.1	79	58.8

※()内は事例eを除いたもの 面積の単位は(m²)

3-4. 単位空間の平面構成

表 3 をみると単位空間の平面構成として特徴がみられたのは大集会室であり、最上階に設置されている事例が 13 事例ある。これは構造上大集会室のような大空間の上に室を置くことを避けたためであると考えられる。

また実習室と和室が同じ階にあるのが 18 事例ある。公民館での和室の使われ方として飲食を伴う利用があるため実習室と和室を同じ階に配置したと考えられる。

表3 単位空間設置階数

事例	階数	受付階	集1	集2	集3	集4	集5～集6	和1	和2	和3	大	実	音
a	2	1	1	1	2			1	2	2	2	1	
b	2	1	1	1				1				1	
c	2	1	1	2	2			2	2		1	2	
d	4	1	2	3	3			3	3	3	4	2	
e	7	3	4	4	5	5	5	3	3	3	6	4	4
f	2	1	1	1	1			1	1		1	1	
g	2	1	2	2	2			1	1	1	2	1	
h	2	2	2	2	2	2		2	2			2	
i	2	1	2	2				1	1		2	1	
j	3	1	2	2	2						2	2	
k	3	1	1	1	2			2	2		3	2	
l	2	1	1	1	1			1	1	1	2	1	
m	2	1	2	2	2			1	1		2	1	
n	2	1	2	2	2			1	1		2	1	
o	3	1	3	3	3	1		2	2		2	2	3
p	3	1	3	3				3	3		2	3	3
q	2	1	1	1	2			1	1		2	1	2
r	2	1	2	2	2			1	1		2	2	2
s	—	2	2	2	2			2	2		2	2	2
t	3	1	3	3	3			3	3		2	3	2
u	4	2	3	3	3			4	4		2	4	3
v	2	1	1	1	2	2		2	2		2	1	2
w	4	2	3	3	3	4		3	3		4	2	3
x	2	2	1	1	1			1	1		2	1	2

4. 単位空間毎にみる計画内容の変遷

4-1. ロビー

ロビーは建物の出入り口に付属して訪問者を導く役割を果たすとともに、待合いなどにも用いられる。

表4に館毎に利用者が自由に使用できるロビーの備品や室、また事務室との位置関係を示す。

ロビーには必ずソファやイス、ベンチが置かれている。70年代、80年代では応接セットのようなソファ、テーブルが置かれることが多くみられる。90年代に入るとイスまたはベンチにテーブルが置かれるつくりが多くみられる。また80年代半ばまでロビーにテレビやロビーと一体となっている図書コーナー、本棚がみられる。特にロビーは80年代まで待合い以外にくつろぐ場であり、90年代に入るとくつろぐというよりはテーブルやイスで簡単な話し合いや作業ができる場となっている。

ロビーに隣接する室として、図書室、図書コーナー、児童ホーム、社会福祉協議会、ホワイエ、ラウンジなどがみられる。

事務室との位置関係は70年代には正面にある場合が3事例、80年代以降は事例gを除く全てが正面に位置する配置となり定着している。

他にロビーにはチラシや利用案内の掲示板、公民館の利用予約のための館内利用端末としてのパソコンが全館に必ず置かれている。また自動販売機を置いている館も11事例みられる。

以上のことから船橋市の公民館のロビーは、待ち合いの場、休息の場、軽作業をする場、情報発信の場、利用相談、利用予約など、公民館活動を補助するという役割を持っていることがわかる。

表4 ロビーの状況

事例	ソファ	イス	ベンチ	テーブル	自動販売機	テレビ	図書コーナーと一体	他の部屋との隣接	事務室との関係
a	○								正面
b	○	○		○	○		○	図書コーナー	隣接
c	○			○	○				隣接
d	○	○		○			本棚有り	出橋所	正面
e	○				○				階が異なる
f		○	○	○	○	○	○	図書コーナー 社会福祉協議会事務室	正面
g		○		○	○	○		図書コーナー 社会福祉協議会事務室	隣接
h	○	○	○	○			○	図書室	正面
i		○		○			○	図書室	正面
j	○			○		○		図書室	正面
k	○			○				図書室	正面
l	○				○			図書コーナー 社会福祉協議会事務室	正面
m	○	○	○	○	○		○	図書コーナー 社会福祉協議会事務室	正面
n	○							図書室	正面
o	○	○		○				図書室 児童ホーム	正面
p			○					児童ホーム	正面
q	○				○			図書室 児童ホーム	正面
r		○	○	○				図書室	正面
s	○	○		○	○			社会福祉協議会事務室	正面
t		○		○				図書室 児童ホーム	正面
u		○	○					図書室 ホワイエ	正面
v		○		○	○			図書室	正面
w		○	○	○				図書室	正面
x		○	○	○	○			図書室 ラウンジ	正面

○は有ることを示す。

4-2. 集会室

集会室は5～6人から20人程度までの小集団による集会活動に利用される単位空間である。

船橋市の公民館では、定員が最小15人～最大

80人までであり、平均的に30～40人程度の集会室が多くみられる。

表5に示すように集会室には必ず黒板、ホワイトボードが設置されている。黒板が設置されていたのは、80年代半ばまでみられ、以降ホワイトボードの設置が定着している。

集会室では1室を仕切りで分割し2室として利用する例もある。70年代までは、アコーディオンカーテンの使用が多くみられ、80年代以降はパーテーションが定着している。事例pではアコーディオンカーテンとパーテーションが2重に設置されるという例もみられた。

机の配置パターンとして表5に示すものがみられるが、机やイスは配置されず、室の端に片付けられている例が多くみられる。このことから利用者が活動時のときだけ机やイスを活動しやすいように配置し、終了時に片づけをすることがわかる。70年代、80年代には集会室にピアノなどの音楽活動に使用する備品がみられるが、90年代以降は音楽活動に使用する備品はみられなくなっている。これは80年代半ばから音楽室が設置されるようになっていたためであると考えられる。70年代、80年代は音楽室という専門室としての単位空間ではなく集会室で音楽活動の使われ方があることがわかる。

表5 集会室の状況

事例	黒板 (固定)	黒板 (可動)	楽譜付 黒板 (可動)	ホワイト ボード (固定)	ホワイト ボード (可動)	ピアノ・オルガン オーディオ機器	仕切りの種類	机 配置パターン	机 配置パターンの凡例
a	○					○	パーテーション	①・無し	
b	○					○	アコーディオンカーテン	無し	
c	○					○	アコーディオンカーテン	無し	
d	○					○	アコーディオンカーテン	無し	
e	○	○			○	○	パーテーション	①・②・③	
f		○					パーテーション	無し	
g	○				○	○	パーテーション	②	
h	○	○	○			○	パーテーション	無し	
i					○		パーテーション	無し	
j		○				○	アコーディオンカーテン	無し	
k	○						パーテーション	①	
l	○						パーテーション	①・②	
m	○						パーテーション	無し	
n	○						パーテーション	②・無し	
o	○			○		○	パーテーション	無し	
p				○	○		パーテーション アコーディオンカーテン	無し	
q				○		○	パーテーション	②・無し	
r				○			パーテーション	無し	
s				○	○		パーテーション	無し	
t				○	○		パーテーション	無し	
u				○	○		パーテーション	①・無し	
v				○			パーテーション	無し	
w				○	○		パーテーション	無し	
x				○			パーテーション	②	
y				○			パーテーション	無し	

○は有ることを示す。

4-3. 大集会室

大集会室は講堂、ホールであり単位空間の中で最も面積の大きい部屋である。使われ方のバリエーションがもっとも多いとされている。

表6に示してあるように事例p、vを除いた全ての館の客席は平床式のホールの形式となっている。講堂面積が500以上である事例p、vは電動の移動式座席となっている。

講堂の裏や脇には倉庫、控室、更衣室などがあり控室は事例jの1981年以降定着し設置され

続けている。

講堂には必ずピアノが置かれ、音楽活動の利用がされている。また卓球台が置かれている館もありスポーツなどの使用もされていることがわかる。

表6 大集会室の状況

事例	コートライン	舞台	舞台裏・脇	控室	更衣室	倉庫	ピアノの有無	客席
a		○	—	—	—	—	○	平床
b	—	—	—	—	—	—	—	平床
c			倉庫			○	○	平床
d		○					○	平床
e		○					○	平床
f	○	○	控室	○			○	平床
g		○	控室・更衣室	○	○		○	平床
h	—	—	—	—	—	—	—	—
i		○	倉庫			○	○	平床
j		○	控室	○			○	平床
k		○	控室	○			○	平床
l		○	控室・更衣室	○	○		○	平床
m		○	控室・更衣室	○	○		○	平床
n		○	控室・更衣室	○	○		○	平床
o		○	控室	○			○	平床
p		○	控室・倉庫	○		○	○	移動式座席
q		○	控室	○			○	平床
r		○	控室・更衣室	○	○		○	平床
s		○	控室	○			○	平床
t		○	控室・更衣室	○	○		○	平床
u		○	控室・倉庫	○		○	○(倉庫内)	移動式座席
v		○	控室	○			○	平床
w		○	控室	○			○	平床
x		○	控室・倉庫	○		○	○	平床

※事例ajの舞台は平台の舞台であり、持ち運びが可能

○は有ることを示す。

4-4. 実習室

実習室は調理実習室のことであり公民館での利用として主に料理サークル、文化祭時の調理、炊き出しなどに使われる。

実習室では、70年代、80年代に黒板が使われているが80年代半ばからホワイトボードが設置され定着している。

これは料理教室などで黒板を使用することで、チョークの粉が飛び料理に入るといけないようにするためでもある。

調理台の数は70年代に3、5、6、7台、80年代前半は5台、7台で設置されたが事例nの1985年以降は7台で定着している。1985年以降に7台に定着したのは事例qを除く全て定員が36名とされていることから1グループ5～6人に講師1人という設定としているということが考えられる。

調理台の中でも一部を車椅子に対応したものを設置している事例がある。とくに年代による傾向がみられるわけではなく70年代の1事例、80年代に3事例、90年代に3事例の合計7事例みられる。事例aは1993年に実習室の改修時に調理台全てを新しくし、1つを車椅子対応にした。事例kは1996年に調理台の1つを車椅子対応にした。それ以外の事例は開館当初から設置されている。

調理台の配置パターンは、壁に沿って配置されるタイプ、調理台1つ1つが完全に独立しているタイプ、調理台同士が連結しているタイプに分けられるが、さらに細かく分類すると表7のように9パターンの調理台の配置がある。

壁に沿って配置されるタイプは、70年代に6事例中4事例みられるが80年代以降には使用されていない。このタイプは調理している全員が

壁に向かってしまうため料理教室などの講義には向いていないが片面にテーブルなどを自由に配置することができ多様な形式で食事会を行うことができる。

調理台が独立しているタイプは囲みながら作業することができるためグループ毎に別々に作業しやすい。また講師用の調理台を各調理台から見ることができ、料理教室向きである。

しかし調理台の配置が固定されていると調理後の食事会では調理台の配置でしか食事会ができない。②のタイプでは特に講師用の調理台というものが見られない。

調理台同士が連結しているタイプは調理台を大きく使え、炊き出しなど大量に料理をつくる場合には向いている。しかし、中央にある調理台からは、調理台の反対側に行きにくくなっている。調理するときの動きが限られてしまうため料理教室などのような場合には向いていない。

表7 実習室の状況

事例	黒板 (固定)	黒板 (可動)	ホワイト ボード (固定)	ホワイト ボード (可動)	調理台数	車椅子対応	調理台 配置パターン	調理台の配置パターンの凡例
a					5	○	②	
b	○				3		①	
c	○			○	6		①	
d	○			○	6		①	
e			○		7		④	
f			○		6		①	
g	○				5		⑦	
h	○				5		⑤	
i	○				7		⑨	
j		○			5	○	④	
k	○				7	○	⑤	
l	○				7	○	⑤	
m	○				5		⑦	
n	○				7		⑦	
o				○	7		⑦	
p			○		7		④	
q			○		7		⑤	
r			○		7		⑧	
s				○	7		⑨	
t			○		7		⑤	
u			○		7		⑥	
v			○		7	○	⑧	
w			○		7	○	③	
x			○		7	○	④	

○は有ることを示す。

4-5. 音楽室

音楽室は公民館の活動には演奏、練習、音楽鑑賞、ダンスなどに使われる。

音楽室では他の単位空間とは異なり必ず2重に扉が使用されている。また履き替えは90年代以降、事例uを除いて定着している。下駄箱の有無においては、事例t以降に置かれている。黒板、ホワイトボードの設置は、黒板は事例e、事例oにみられ、事例o以降はホワイトボードが使用され定着している。音楽室の備品として必ずピアノが設置されている。また机やイスが室の端に片付けられている事例が多くみられる。

4-6. 和室

和室は茶道、着付けなどに使用されるもので

あるが、使い勝手が良いため多目的に使用されることが多い。

和室で必ず靴を脱ぐため、踏み込みが設置されている。また和室に炉や水屋、給湯室、床の間が設置されている事例が多くみられ、茶道などの活動に必要な設備がある。給湯室においては事例s以降みられなくなっている。

和室には続き間となっている事例が多くみられ、続き間の仕切りとしてはアコーディオンカーテン、ふすま、パーテーションがある。他に事例eでは床の間が可動式であり床の間で部屋を分割している。

表8 和室の状況

事例	下駄箱	炉	水屋	給湯室	仕切りの種類	床の間	縁側
a		○		○	アコーディオンカーテン		
b	○	○				○	
c	○				ふすま	○	
d	○		○		ふすま	○	○
e	○	○	○	○	可動式の床の間	○	
f	○	○		○	ふすま	○	
g		○	○		ふすま	○	
h	○	○	○		ふすま		○
i		○	○	○	ふすま	○	
j	—	—	—	—	—	—	—
k		○			アコーディオンカーテン	○	
l		○	○	○	ふすま	○	○
m	○	○	○	○	ふすま	○	
n	○	○	○	○	ふすま	○	○
o	○	○	○	○	パーテーション	○	
p	○	○	○	○		○	○
q	○	○	○	○	ふすま	○	○
r	○	○	○	○	パーテーション	○	○
s	○	○	○	○	ふすま	○	○
t	○	○	○			○	○
u		○	○		ふすま	○	○
v		○	○		パーテーション	○	
w	○	○	○		パーテーション	○	
x		○	○		パーテーション	○	○

○は有ることを示す。

5. まとめ

船橋市公民館の単位空間の変遷をみると、80年代後半から音楽室の設置の定着、大集会室の面積の増加と移動客席の導入事例がみられる。

ロビーにおいては面積の増加、くつろぐ場から軽作業できる場への変遷がみられる。

他に集会室、実習室、和室では大きな変化がみられない。このことから集会室、実習室、和室は、各時代の活動にも対応でき、基礎的な活動空間として定着してきていることを確認した。

本研究が船橋市にある公民館の単位空間の使われ方の特徴か、全国的に普遍性をもつものであるかは、他の地域の公民館の単位空間との比較、検討を行なう必要があり、今後の研究で報告する。

〔註〕

¹ 単位空間とは日本建築学会編『建築設計資料集成3単位空間Ⅰ』（1980）によると、基礎的はたらしをもった空間、共通した性格のある空間、が建築全体を構成する種々の空間であり、それぞれの機能特色を持つ空間要素を抽出することのできる各種の空間的まとまりを「単位空間」としている。

² 事例については老朽化による建て替えのため、2006年10月より事務所ビルを仮設運用している1事例を除く。

〔参考文献〕

浅野平八著「地域集会施設の計画と設計」理工学社(1995)pp. 97-164

河野祐祐「公民館 建築設計のための手引」井上書院(1972)

日本建築学会編「建築資料集成3 単位空間Ⅰ」丸善(1980)

日本建築学会編「空間学事典 改訂版」井上書院(2005)

「建築知識（地域センター）づくり・再考」建築知識、5月号(1983)、pp. 57-128

曹慶鏞「公民館のオープンスペースに関する研究」修士論文(1992)pp. 139-196